

城西人文研究 既刊総目次

創刊号 (1973年)

| | |
|-------------------------|------|
| 序 | 武市春男 |
| 『城西人文研究』の創刊に際して | 蒔田栄一 |
| ニーチェとキリスト教倫理 | 木阪昌知 |
| マヤの石造建築における「持送りアーチ」について | 貞末堯司 |
| 意味と認識 | |
| ——パース研究(4)—— | 西勝忠男 |
| シーハラヴァットバカラナ訳註(Ⅱ) | |
| ——第1章 第3・4・5話—— | 森祖道 |
| 独白と対話 | |
| ——ジョイスとペローの距離—— | 茂呂公一 |
| ポーにおけるグロテスクとアラベスク | 水田宗子 |
| 内村鑑三おぼえ書き(その八) | 岩谷元輝 |
| 人間の社会的構造と疎外 | 松浦孝作 |
| 『靈魂の系図』について | |
| ——Carlyle を中心として—— | 松田福松 |
| カフカの世界 | |
| ——非ユダヤ的ユダヤ人—— | 山口勲 |

第2号——蒔田栄一教授追悼論文集——(1974年)

| | |
|-----------------------------|-------|
| 巻頭言 | 武市春男 |
| バスク語の単文における語順の文体的価値について | 堀田郷弘 |
| 内村鑑三おぼえ書(その九) | 岩谷元輝 |
| 精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造(1) | 木阪昌知 |
| 『サムラー氏の惑星』試論 | 森哲夫 |
| 「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考 | 太田広 |
| 宗教史にみる日本の均衡のメカニズム(Ⅳ) | |
| ——マーケティングと宗教の関連において—— | 渡辺好章 |
| 遠近法と身体性について | 山口勲 |
| 同一性(アイデンティティ)に関する諸問題——その一—— | 帆足喜与子 |
| 涼袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻—— | 黄色瑞華 |

| | |
|-----------------------|---------|
| 「紙」以前の書写の用材について | 井 口 大 介 |
| 故蒔田栄一教授 追悼 | 松 田 福 松 |
| あゝ蒔田栄一先生よ | 伊 部 政 一 |

第 3 号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

| | |
|---|---------|
| アンデス古代文明の諸問題 | 貞 末 堯 司 |
| 発見の哲学——パース研究（6）—— | 西 勝 忠 男 |
| 首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成 ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較—— | 田 村 正 夫 |
| 鉄齋と華山 | 小 野 浩 |
| 日本民主主義研究序論 | 森 田 昌 幸 |
| 遠近法と身体性——その哲学的意味—— | 山 口 勲 |
| Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's <i>Play It As It Lays</i> | 水 田 宗 子 |
| 『おらが春』の素材 | 黄 色 瑞 華 |
| 日本におけるアンドレ・マルロー受容 ——1941年（昭16）まで—— | 堀 田 郷 弘 |
| ジュイムズ・ジョイス研究——造形への意識—— | 茂 呂 公 一 |
| 作品とその批評 —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere”—— | 萩 原 博 子 |
| 司馬遷論 | 黒 羽 英 男 |
| 三代日本主義の系譜について | 松 田 福 松 |

第 4 号（1977年）

| | |
|---|---------|
| 論理の自律性について——パース研究（7）—— | 西 勝 忠 男 |
| カントの「定言命法」 | 山 口 勲 |
| 中央アメリカの考古学史 ——先コロンブス期文化の研究を中心とした—— | 貞 末 堯 司 |
| クレアラ・アン・ペイター覚え書 | 萩 原 博 子 |
| 『教育者としてのショーペンハウアー』から ——ニーチェと自然—— | 河 内 信 弘 |
| アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動 | 堀 田 郷 弘 |
| アンドレ・ジッドの方法（Ⅱ）——生命の美学—— | 陶 山 麿 |

冷たき牧歌

| | |
|------------------------|------|
| ——キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて—— | 永井豊実 |
| 『おらが春』の素材(続) | 黄色瑞華 |
| 歌人「安江不空」 | 小野浩 |

第5号(1978年)

| | |
|---|------|
| 南アメリカの考古学史 | 貞末堯司 |
| Manorathapūrāni 源泉資料年代論 | 森祖道 |
| 大学英語教育の問題点(上) | 鮫島久男 |
| クレアラ・アン・ベイター覚え書(Ⅱ) | 萩原博子 |
| 『シンペリン』, 皮肉な遊戯 | 戸所宏之 |
| カフカ研究の視座を求めて | 山口勲 |
| 東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説(1960年2月22日)と 東京羽田空港におけるインタビュー(2月29日) | 堀田郷弘 |
| アンドレ・ジッドの方法(Ⅲ) | 陶山夔 |
| ニーチェと自然(一) | 河内信弘 |
| 『おらが春』第一話の設定をめぐる | 黄色瑞華 |

第6号(1979年)

| | |
|---|-----------------|
| ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために | 山口勲 |
| パーソナリティテストとしてのSCTに関する一考察 | |
| ——特に応用とその解釈をめぐる—— | 駒崎勉 |
| ジェイムズ・ジョイスの手法について(1) | |
| ——我国におけるドョイス評価の推移—— | 茂呂公一 |
| A Textual History of Walter Pater's <i>Renaissance</i> | Hiroko Hagiwara |
| マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」—— | 小野昌 |
| ニーチェと自然(二)——『悲劇の誕生』—— | 河内信弘 |
| 全集本『おらが春』について | 黄色瑞華 |

第7号(1980年)

| | |
|--------------------------------|------|
| ヤスパースとフッサール | |
| ——精神病理学の哲学的基礎—— | 山口勲 |
| PANTUN——puisi dan puisi rupa—— | 黄色瑞華 |
| 国際水利法に関する一考察 | 土屋生 |

- ジェイムズ・ジョイスの手法について (II)
 ——我国におけるジョイス評価の推移——……………茂 呂 公 一
- The Development of the Audiolingual Approach
 ——Trends in Language Methodology in the United States——
 ……………Fumiko Tamura
- 『空騒ぎ』の冥と光——偽りの力学——……………戸 所 宏 之
- 「エンディミオン」における映像のあり方……………永 井 豊 実
- 『ヴェニス商人』における Venture について……………小 野 昌
- カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉——……………村 岡 正 明
- アンドレ・ジッドの方法 (IV)——生命の美学——……………陶 山 曠
- 「騎士と死神と悪魔」
 ——『悲劇の誕生』におけるデュラレーの銅版画をめぐる——
 ……………河 内 信 弘

第 8 号 (1981年)

- ワイトゲンシュタインのケムブリッジ……………山 口 勲
- アメリカ文化論 (I)……………小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三
- シャルル・モーロンの「精神批評」(1)……………越坂部 則 道
- 「高き山々の頂きから」
 ——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み——……………河 内 信 弘
- 思想家としてのニーチェ……………小 野 浩
- 『四山藁』の俳論……………黄 色 瑞 華

第 9 号 (1982年)

- アメリカ文化論 (II)……………金 勝 久
- ジョイスのバドバ・エッセイについて……………茂 呂 公 一
- アンドレ・マルローの最初の美術論
 《La Peinture de Galanis》(1922) について
 ——マルローの初期の美術論の研究(前)——
 ……………堀 田 郷 弘
- シャルル・モーロンの「精神批評」(2)……………越坂部 則 道
- 教育場面における夢の活用 (I)
 ——その背景としてのフロイトとユング——
 ……………細 部 国 明
- 身・語・意の三業 (tīṇi kammāni) と carita, saṅkhāra, samācāra
 ……………池 田 練 太郎

| | |
|--------------------------------|---------|
| 詩的コスモゴニーへの論理 ——ランボー詩の内的世界—— | 川那部 保 明 |
| ハイデガー先生の想ひ出 | 小 野 浩 |
| 〔研究ノート〕 | |
| 俳諧連歌における謡曲の文句取り（一） | 黄 色 瑞 華 |

第10号（1983年）

| | |
|---|---------|
| ウィトゲンシュタイン：太洋の測量技師 ——逆限定のパス—— | 山 口 勲 |
| アメリカ文化論（Ⅲ） | 金 勝 久 |
| ジョイスのディケンズ・エッセイについて | 茂 呂 公 一 |
| 教育場面における夢の活用（Ⅱ） ——夢と宗教—— | 細 部 国 明 |
| Zur Entwicklung der deutschen Sprache in der DDRKuniomi Uchimura | |
| 『失われた時を求めて』における作中人物の出現と 話者のまなざし | 北川原 哲 夫 |
| カミュと〈他者〉 | 村 岡 正 明 |
| 〔書 評〕 | |
| (Ⅰ) LE DASAVATTHUPPAKARANA Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE | |
| (Ⅱ) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA Texte pāli et traduction par Jacqueline VER EECKE森 祖 道 | |
| 〔研究ノート〕 | |
| 渭浜庵執筆一茶 | 黄 色 瑞 華 |

第11号（1984年）

| | |
|--|---------|
| 〈人間=記号〉論について | 西 勝 忠 男 |
| 教育場面における夢の活用（Ⅲ） ——ユングの宗教夢解釈に対するフロムの批判—— | 細 部 国 明 |
| Erühneuhochdeutsch und Buchdruckerkunst-Ⅲ. Die Herausbildung der (verbalen) Satzklammer | 藤 井 明 彦 |

Didaktische Probleme des Geschichtsunterrichts in den
sozialistischen Ländern am Beispiel der UdSSR ……Stefan Wundt

知と自我

- 初期シェリング哲学の原理について— ……小林 保 則
歌人 安江不空 ……小 野 浩
『我春集』の序文をめぐる ……黄 色 瑞 華

第12号 (1985年)

ロンゴバルディ侵住建国をめぐる諸問題

- イタリア民族形成史の一こま— ……森 田 鉄 郎
教育場面における夢の活用 (IV)
—ユングの宗教夢解釈に対するボスの批判— ……細 部 国 明
ベン・ジョンソンの男性的雄弁の美学
—*Timber* の詩論を通じてジョンソンの詩を読む— ……平 松 哲 司

Die Kommunistische Erziehung und ihre

Wertvorstellungen ……Stefan Wundt

シャルル・モーロンの「精神批評」(3) ……越坂部 則 道

『我春集』から『株番』へ ……黄 色 瑞 華

「研究ノート」

農村集落における精神的ムラ境の諸相

- 茨城県桜村における虫送りと道切りを事例として— ……小 口 千 明
ヴァイマル憲法制定国民議会における裁判官の審査権
—「ヴァイマル憲法下の裁判官の審査権」研究序説— ……畑 尻 剛
グスターフ・フライタークの〈Soll und Haben〉 ……鈴 木 敏 夫

第13号 (1986年)

巻 頭 言 ……石 南 國

“鏡”の論理から“魂”の論理へ

—人間記号論序説— ……西 勝 忠 男

北歐中世 (スエーデン) における自力救済慣行

—実力社会の一考察— ……伏 島 正 義

潮湯の偏在性に関する地理学的予察

—日本における海水浴普及との関連から— ……小 口 千 明

ジョイスの“Exiles”における受難の思想について ……茂 呂 公 一

- Eloisa と Belinda の相違……………石川郁二
 状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に
 見られる共通特性……………鎌田精三郎
- R. Huch の〈スイスの春〉覚え書
 ——研究ノート——……………鈴木敏夫
- J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって……………藤井明彦
 ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と
 人物描写について……………飯塚英一
 エアリエルの材源再考……………門野泉
- パトナム, シドニーの *sprezzatura* 精神
 ——宮廷世界の美学と「ルネサンス・
 ヒューマニズム」の対峙——……………平松哲司
- The Dimensions of the U. S.—Japanese
 Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue
 ……………古川友章
- 神話概念の変遷Ⅱ
 ——翻訳語としての『神話』をめぐって(上)——……………天沼春樹
- 自己言及のかたち
 ——『イリュミナション』『生活Ⅲ』と「生活Ⅰ」を読む——……………新宅巖
- フロベールにおける登場人物と場面……………大久保政憲
- 『息子』……………アルトゥール・シュニッツラー
 ——翻訳——……………春日正男
- 『バシュラルと過したひと夏』とその研究(Ⅰ)……………越坂部則道
- アンドレ・ジッドの方法(VI)……………陶山 騰
- アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書——
 絵画における悲劇的表現をめぐって」の翻訳と解題……………堀田郷弘
- 「シルス・マリア」をめぐって……………河内信弘
- 日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策……………大豆生田稔
- 歌人 安江不空・序(3)
 ——大和歌の問題——……………小野浩
- 『志多良』の序文をめぐって……………黄色瑞華
- 高橋克巳論——虚無僧のバトス——……………山口 勲

第14号(1987年)

Mahāsivātthera as Seen in the Pāli Aṭṭhakathās……………Sodō Mori

- キーツの『秋に寄せて』(一)
 ——第2連の情景——……………永井豊実
 坪内逍遙とシェイクスピア
 ——帝劇『ハムレット』をめぐって——……………小野昌
 TENSE and TIME in English ……………Seizaburo Kamata
 コシンスキーの『自己芸術』: *Steps* をめぐって ……………繁田真弓
 Kajii Motojiros “Fliegen im Winter” ……………Stefan Wundt
 E. T. A. ホフマン『さびれた家』
 ——作話技術を中心に——……………齊藤洋
 バルザックの小説の提示部について……………佐野栄一
 [研究ノート]
 ニーチェにおける詩人
 ——ニーチェの詩の理解のために——……………河内信弘
 [研究ノート]
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(一)……………黄色瑞華
 イェイツの「エーカーの草地」について
 ——〈悟り〉か〈狂気〉か——……………小堀隆司
 アポリネールの恋の詩と真実……………堀田郷弘

第15巻 第1号 (1987年)

- 推論の妥当性から〈魂〉の論理性へ……………西勝忠男
 “Elegy to the Memory of an Unfortunate
 Lady” と “Eloisa to Abelard”……………石川郁二
Faerie Queene, Book Iにおける「光」と「闇」……………古川啓二
 [研究ノート]
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(二)……………黄色瑞華
 「松のひびき波をしらぶ」考……………安保博史
 イェイツ「マイケル・ロバーツの二重の幻想」について
 ——幻滅の狡智——……………小堀隆司

第15巻 第2号 (1987年)

- A Study of the *Sihalavathuppakarana*……………Sodō MORI
 The Acquisition of English and the

Learner's Attitude

—Motivation vs. Ego Boundary—.....Fumiko TAMURA

James Joyce の “Exiles” と芥川龍之介の

『藪の中』との類縁性(1)

—人物像を中心にして—茂 呂 公 一

結婚で終わらない喜劇, *Love's Labour's Lost* の構造.....小 野 昌

テオドア・フォンターネ: グスタフ・フライタークの

<借り方と貸し方> (試訳)鈴 木 敏 夫

ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』

におけるマカーリエ神話.....荻 野 静 男

神話概念の変遷 I

—Mythos の語史に関して (上)—天 沼 春 樹

ニーチェにおける夕

—詩人としてのニーチェ—河 内 信 弘

[研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』の句(三).....黄 色 瑞 華

第 16 卷 第 1 号 (1988年)

ジョイスの “Exiles” と芥川の『藪の中』に

おける卍巴模様の構造と, 真相の曖昧さの

意味について

—ジョイス受容史への加筆の試み—茂 呂 公 一

カミュの「無差異」について.....村 岡 正 明

Dostoevskij の小説における思想上の傾向.....ヴント・シュテファン

イェイツ「ビザンチウムへの船出」について

—聖なる彼方の詭計—小 堀 隆 司

パシュラールの死をめぐる

—『パシュラールと過したひと夏』とその研究 II—越坂部 則 道

ニーチェにおける第七の孤独.....河 内 信 弘

[研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(四).....黄 色 華 瑞

第16巻第2号（1988年）

| | |
|--------------------------------|------|
| ワーグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』 | |
| ——《死の薬》をめぐって—— | 春日正男 |
| 『結婚の生理学』におけるバルザックの政治 と文学の問題 | 佐野栄一 |
| イエイツの「塔」について | |
| ——反復としての回想—— | 小堀隆司 |
| [研究ノート] | |
| 井泉水編『一茶俳句集』入集の句（五） | 黄色瑞華 |